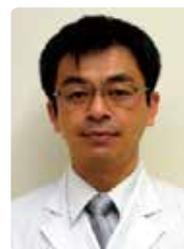


骨粗鬆症性脊椎骨折について

整形外科部長 兼 診療放射線科部長
向山 啓二郎



今月は骨粗鬆症性脊椎骨折を取り上げたいと思います。骨粗しょう症というのは、骨の量が減ったり質が悪くなったりして、骨がもろく、骨折を起こしやすくなる病気です。高齢女性に多い病気です。脊椎でも骨折が起こります。胸椎と腰椎の境目の部分で起こることが多く、脊椎骨折を起こすと、腰や背中の強い痛みが生じることがありますが、骨折を起こした時には痛みを伴わないことも多く「知らぬ間に骨折」などという言葉も生まれています。

この骨折には椎体と呼ばれる前方の部分の一部が潰れるだけの圧迫骨折と、椎体の後ろの部分にも骨折が及んでいる破裂骨折があり、骨折の重傷度により入院や手術の必要性や、治療方法が変わってきます。

もともと脊椎には体をスムーズに動か

骨粗鬆症性椎体骨折



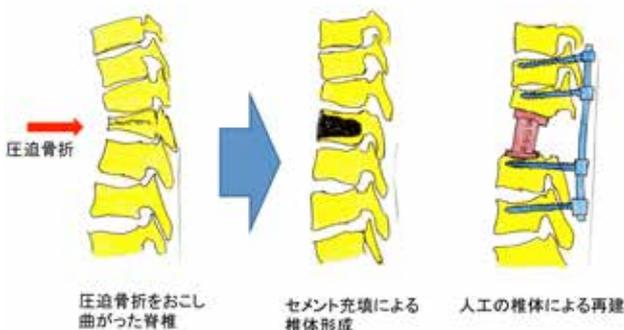
かし支える支柱としての役割と、中に通っている脊髄などの神経の容れ物としての役割があります。破裂骨折を起こすと、脊椎の中の神経を圧迫して足のしびれや痛み、物の感じ方がおかしいとか、力が出ないといったまひの症状が出ることもあります。まひが強ければ早期の手術をしないと手遅れになることもあります。また、脊椎の支持性が失われると、腰が曲がってまっすぐに立っていられなくなり、それを代償するために背中の上の方や首、股関節やひざへの影響も出てきます。これらについては「成人脊柱変形」として次回以降で触れたいと思います。

脊椎の骨折で厄介なことは「進行する可能性がある」ということです。脊椎の前方が潰れることで、その部分で背骨は前かがみになるように曲がってしまいます。これを脊椎の後弯（こうわん）といいます。これが起こるとますます前方に体重がかかってしまうことになり、お隣の脊椎がまた骨折を起こしてきたりするので、一度骨折を起こした人ほど、また新しい骨折を起こしやすくなります。これを骨折の連鎖といいます。背骨が曲がってバランスが悪くなれば



多発性の圧迫骨折 (MRI)

骨粗鬆症性脊椎骨折に対する手術の例



が増えてきています。セメントを椎体の中に流し込む方法や、ねじや人工物の椎体で背骨の価値を整える方法です。それでも手術は体への負担は大きく、あまりに高齢な方にはできないこともあります。早めの発見や予防が大切です。腰が最近曲がってきたと感じたら一度検査を受けてみてはいかがでしょうか。